

医学教育 2015, 46(3): 259~271

委員会報告

医学生イベント・シムリンピックについて

シミュレーション教育の理解と臨床能力客観評価のための教員連携

日本医学教育学会第 17 期 教材開発・SP 委員会

石川 和信^{*1,8} 首藤 太一^{*2,8} 小松 弘幸^{*3,8}
 諸井 陽子^{*1,9} 阿部 恵子^{*4,8} 吉田 素文^{*5,8}
 藤崎 和彦^{*6,8} 羽野 卓三^{*7,9} 廣橋 一裕^{*2,8}

要旨:

シミュレーション教育への理解と普及をはかり、医学生の臨床能力の客観的評価システムを全国の医学部教員が連携して確立することを目的として、第 46 回日本医学教育学会大会の開催翌日に、医学生イベントとして、シムリンピック 2014 を開催した。全国公募した 12 チーム 36 名の医学部 5、6 年生が参加し、シミュレータや模擬患者を活用した 6 つのステーション課題に挑戦した。各課題の構成、難易度、妥当性を臨床研修医の協力で検証し、実行委員会でブラッシュアップした。企画の構想、実行委員会組織、開催準備、当日の概要、参加者アンケート結果に考察を加えて報告する。
 キーワード: シミュレーション医学教育, 客観的臨床能力評価, シミュレータ, 模擬患者, 臨床推論

Medical Students' Simlympic Games 2014: The first team-based clinical skills competition event in Japan

17th Educational Materials' Development Committee, Japan Society for Medical EducationKazunobu ISHIKAWA^{*1,8} Taichi SHUTO^{*2,8} Hiroyuki KOMATSU^{*3,8} Yoko MOROI^{*1,9}Keiko ABE^{*4,8} Motofumi YOSHIDA^{*5,8} Kazuhiko FUJISAKI^{*6,8} Takuzo HANO^{*7,9} Kazuhiro HIROHASHI^{*2,8}

Abstract:

To encourage the broad use of simulation-based medical education and establish partnerships to promote objective structured clinical examinations after clinical clerkship among medical teachers, we hosted the first team-based clinical skills competition event for medical students in Japan, named 'Medical Students' Simlympic Games 2014'. Thirty-six (12 teams of three) open-recruited 5th or 6th grade medical students participated in this event. Student teams performed clinical tasks at 6 stations, which actively utilized the strengths of simulators or simulated patients. Contents, composition, difficulty level, and validity were tested by trainee doctors and examined by committee members in advance. In this report, we describe our concept, executive committee formation, a variety of arrangements, the outline on the day of the event, and the results of a questionnaire targeting participants. (126 words)

Key words: simulation-based medical education, assessment of clinical competency, simulator, simulated patients, clinical reasoning

*1 福島県立医科大学 医療人育成・支援センター, Center for Medical Education and Career Development, Fukushima Medical University

[〒960-1295 福島市光が丘 1 番地]

*2 大阪市立大学大学院医学研究科 総合医学教育学, Department of Medical Education and General Practice, Osaka City University Graduate School of Medicine

*3 宮崎大学医学部 医学教育改革推進センター, Center for Medical Education, Faculty of Medicine, University of Miyazaki

*4 名古屋大学医学系研究科地域医療教育学, Department of Education for Community-oriented Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine

*5 九州大学大学院医学研究院医学教育学部門医学教育学講座, Department of Medical Education, Faculty of Medical Sciences, Kyushu University

*6 岐阜大学医学教育開発研究センター, Medical Education Development Center, Gifu University

*7 和歌山県立医科大学 教育研究開発センター Center for Educational Research and Development, Wakayama Medical University

*8 委員 Committee member, Educational Materials' Development Committee

*9 協力者 Collaborator

1. 企画のねらいと背景

患者安全への配慮や侵襲的な手技を修練する学習者の保護の観点から、シミュレーション教育の意義が増している¹⁾。しかしながら、本邦の医学生スキラボの利用状況には大学間で大きな開きがあり²⁾、シミュレータや模擬患者を活用した卒前学習の機会に十分に恵まれない医学生の存在が懸念される。

この状況を受け、第17期・教材開発・SP委員会では、シミュレーション教育の理解と普及をはかること、および、医学生の臨床能力（パフォーマンス）を客観的に評価するシステムを確立することを目的として、Medical Simulation Olympic

2014（略称：医学生シムリンピック2014）を企画した。全国大学医学部の学生に、楽しく競い合いながら、シミュレーションを活用した学習に親しむ機会として参加を呼び掛け、臨床実習での学習の成果を3人1チームで力試しする企画とした。

2. 開催準備

準備の流れを表1に示す。教材開発・SP委員会にて、医学生シムリンピック2014の企画を立案、予算案を作成し、学会の承認を受けた。2013年11月に、実行委員会を組織し、ステーション課題作成委員の委嘱、事務局の編成、連絡体制の構築を行った（表2）。本委員会委員が中心とな

表1 医学生シムリンピック2014開催までの流れ

年月	実施事項	作業内容
2012.9～	・医学生シムリンピックの企画立案	・教材開発・SP委員会にて発議・討議
2013.3～7	・予算案作成	・課題作成、事前ブラッシュアップ、大会開催、事後解析
2013.11～12	・実行委員会の組織と委員委嘱	・委員・事務局リストと連絡体制の構築
2014.1～6	・ステーションのレイアウトと課題の作成	・ステーションのレイアウト ・ステーション課題・評価項目の作成 ・シミュレータ、模擬患者、物品等のリストアップ
2014.3～4	・イベント開催のアナウンス ・ステーションの課題提出	・ユニットの会、日本シミュレーション医療教育学会メーリングリスト
2014.4～	・第46回日本医学教育学会大会ホームページでのアナウンス ・全国80医学部へのポスター発送 ・医学生参加チームの募集開始	・開催要項、ポスター、送付リストの作成 ・参加チーム選考法の検討 ・エントリーシートの作成
2014.5.17&18	・課題ブラッシュアップと運用検討のためのミーティング (福島県立医科大学 スキラボアドバンス)	・ステーション課題の設営 ・各ステーションでの競技者数の検討 ・臨床研修医の模擬受験と評価 ・実行委員全員と研修医による課題検討 ・評価法と表彰の検討 ・模擬患者・補助員の確保 ・会場レイアウト・予算・会計 ・参加者・見学者アンケート ・映像・記録
2014.6.20	・参加募集締め切り	・参加チームの選考 12チーム ・参加チームへの連絡
2014.7.20	・医学生シムリンピック2014開催(和歌山県立医科大学 高度医療人センター)	表4を参照
2014.9～	・事後解析	・評価者からのフィードバック ・参加者および見学者アンケート集計 ・報告書作成

表2 医学生シムリンピック 2014 実行委員会組織 ※教材開発・SP 委員会

担 当	所 属		氏 名	※
ディレクター	大阪市立大学	名誉教授	廣橋 一裕	○
	和歌山県立医科大学	教育研究開発センター	羽野 卓三	
コーディネーター	福島県立医科大学	医療人育成・支援センター	石川 和信	○
福島会場責任者	福島県立医科大学	医療人育成・支援センター	石川 和信	○
和歌山会場責任者	大阪市立大学	総合医学教育学	首藤 太一	○
課題ブラッシュアップ 責任者	宮崎大学	医学教育改革推進センター	小松 弘幸	○
	名古屋大学	地域医療教育学講座	阿部 恵子	○
交渉・PR 責任者	岐阜大学	医学教育開発研究センター	藤崎 和彦	○
事後解析・報告書作成	九州大学	医療系統合教育研究センター	吉田 素文	○
	福島県立医科大学	医療人育成・支援センター	諸井 陽子	
ビデオ・写真撮影	福島県立医科大学	医療人育成・支援センター	小林 元	
	大阪市立大学	スキルスシミュレーションセンター	奥 幸子	
物品準備	和歌山県立医科大学	教育研究開発センター	中谷 陽子	
会計	大阪市立大学	スキルスシミュレーションセンター	岡田 明子	
	福島県立医科大学	医療人育成・支援センター	菅原 亜紀子	
ステーション A	大阪市立大学	総合医学教育学	首藤 太一	○
	新潟大学	総合医学教育センター	鈴木 利哉	
ステーション B	東京ベイ・浦安市川医療センター	救急科	志賀 隆	
	京都府立医科大学	救急・災害医療システム学	山畑 佳篤	
	東京慈恵会医科大学	救急医学	武田 聡	
ステーション C	岐阜大学	医学教育開発研究センター	藤崎 和彦	○
	東北大学	医学教育推進センター	石井 誠一	
	名古屋大学	地域医療教育学講座	阿部 恵子	○
ステーション D	福島県立医科大学	医療人育成・支援センター	石川 和信	○
	宮崎大学	医学教育改革推進センター	小松 弘幸	○
	東北大学	総合地域医療研修センター	加賀谷 豊	
ステーション E	大阪医科大学	総合診療・治療学講座 救急医学	西本 泰久	
	佐賀大学	卒後臨床研修センター	吉田 和代	
ステーション F	大阪市立大学	呼吸器内科学	栩野 吉弘	
	宮崎大学	内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野	有村 保次	

り、ディレクター、コーディネーター、会場責任者、ステーション課題担当者、交渉・PR 責任者、事後解析・報告書作成、ビデオ・写真撮影、物品準備、会計、ステーション担当者を決定した。その後、ステーション課題と評価項目の作成、必要なシミュレータ・模擬患者・物品等のリストを作成した。この際、(1) 臨床実技を学び競

う趣旨の企画であり、共用試験や総括評価として実施する OSCE のイメージとは異なる楽しめる雰囲気のステーションを創作すること、(2) 臨床技能 + α (臨床推論・決断、チームワーク、等) を客観的に測定できる課題とすること、(3) ステーションの試験時間は 10 分で運用すること、が周知された。

医学教育関係者へのシムリンピック開催のアンウンスと参加学生チームの募集は、ユニットの会、日本シミュレーション医療教育学会のメーリングリスト、第46回日本医学教育学会大会ホームページ、全国大学80医学部へのポスター送付により実施した。参加者の資格は、臨床実習での学習成果を力試しする目的から、医学部5、6年生とし、同一大学の3名が1チームとして、エントリーする方式とした。締め切りまでに、全国12大学16チームからの申込みがあったが、開催時間の都合から各大学から1チームを先着順に10チームをエントリーした。開催校である和歌山県立医大からの2チームは指定枠とし、計12

チームの参加とした。

表3に、6つのステーション課題の概要、活用したシミュレータ・模擬患者・主な物品を示す。各ステーション担当者から提出された課題シート、評価表、検査結果シート、模擬患者用シナリオの様式を整え、福島県立医科大学において、課題ブラッシュアップのためのミーティングを実施した。あらかじめ協力依頼した4人の臨床研修医が受験した。その後、実行委員全員と研修医が、全てのステーションを巡回しながら、課題の構成、使用機器・器具、難易度、妥当性、有用性について、率直に意見を述べ合い、ブラッシュアップを行った。また、シムリンピックの企画が初回

表3 シムリンピック2014 6ステーションの概要

ステーション	課題	概要	競技人数	評価ポイント	活用したシミュレータ、模擬患者、主な物品
A	身体診察と基本手技	身体診察と基本手技	3	直腸診 静脈採血 コミュニケーション	静脈採血シミュレータ
					採血器具・シャープスコンテナ、等
					直腸診シミュレータ
					模擬血便
B	急変対応	造影剤 アレルギー患者への 初期対応	3	初期対応 チーム医療	高機能救急患者シミュレータ
					救急カート、薬剤、輸液セット、留置針、等
					ムラージュ(アナフィラキシー時の紅斑を作成)
C	臨床手技を伴う 医療面接	外傷患者への 対応	1	コミュニケーション 皮膚縫合 清潔操作	縫合セット
					清潔布
					ディスプレイ手袋
					模擬患者(50歳代 女性)
D	心臓聴診と循環器疾患	心臓聴診に 基づく診断	1	心臓聴診 臨床徴候と データの解釈	心臓聴診シミュレータ
					聴診器
					臨床徴候と検査データのカード
E	救急蘇生	胸痛患者への 初期対応	3	致死性不整脈 患者への初期対応 チーム医療	救急蘇生マネキン
					バッグバルブマスク
					AEDトレーナー
					ポケットフェースマスク、フェースシールド
					ディスプレイ手袋
補助者(セッティング役)					
F	肺音聴診と呼吸器疾患	肺音聴診に 基づく診断	1	肺音聴診 臨床徴候と データの解釈	肺音聴診シミュレータ
					聴診器
					臨床徴候と検査データのカード

であることから、このミーティングでは、大会の運用面についても詳細な検討を行い、各ステーションの競技人数、評価法、表彰、物品の調達、模擬患者・補助員の確保、予算・会計、会場レイアウト（図1）、見学者への対応、参加者・見学者へのアンケート、映像・記録、等についても協議した。

3. 開催概要

第46回日本医学教育学会大会第2日のプログラム終了後、前日に会場準備を行った。全体準備打ち合わせ後、19時から会場設営、各ステーションのシミュレータや機器のセッティング、指示出しとモニター室の調整、等を実施した。また、同日に模擬患者との最終打ち合わせを行った。なお、参加学生は、大会開催校の和歌山県立医大の学生の呼びかけで、自主的な事前交流会を開催した。

シムリンピック 2014 開催当日のスケジュールを表4Aに示す。午前8時半から、医学生チームの受付、競技の順番のくじ引き抽選、競技人数1名（シングルス）ステーションC、D、F（表3）のエントリーを行った後、開会式で、開催の趣旨説明、審判員の紹介、競技と記録の使用に関する説明、参加チームの自己紹介、選手宣誓を行った。その後、参加チームは、くじ引きで決められたステーション位置から、6つの課題（各10分）に挑戦した（写真A-F）。移動時間を4分間としたが、ステーションによっては、事前説明のために早く呼び入れるなどの工夫を行った。各ステーションへの指示と運用状況の把握をモニター室で行った。

競技成績は、各ステーション審判員が評価シートにしたがって採点し、チーム成績集計表に順位を記入し、事務局が6ステーションの結果を取り

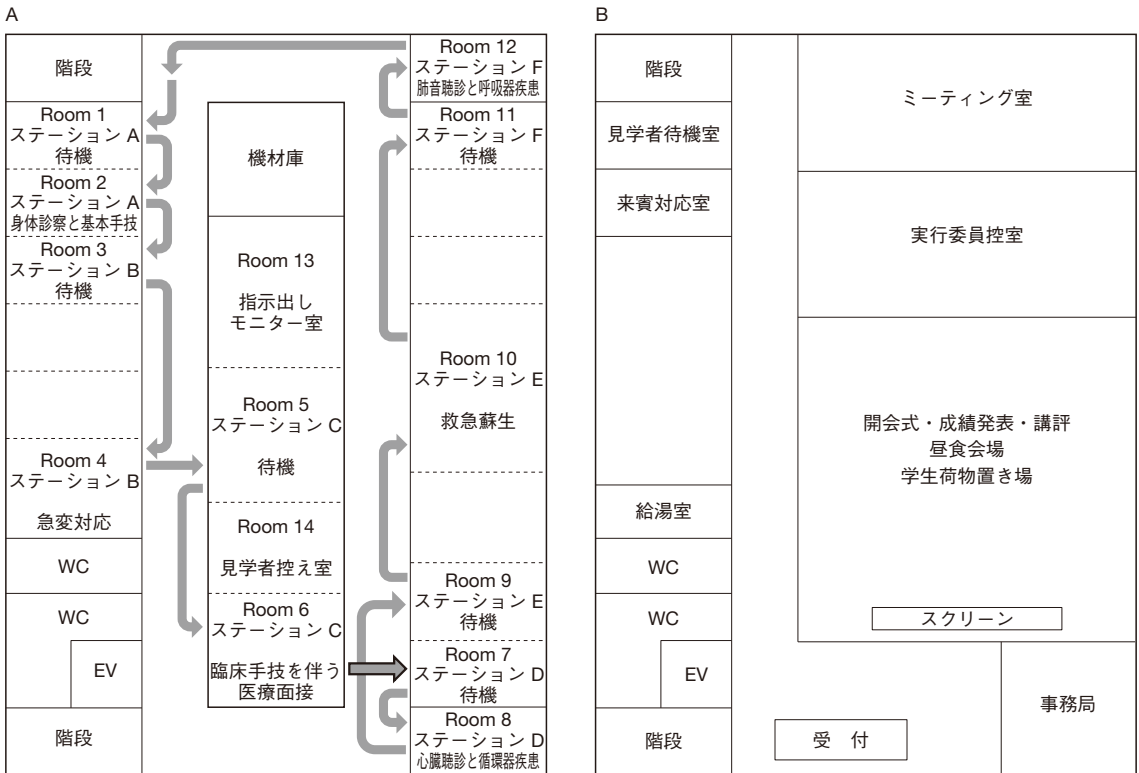


図1 シムリンピック 2014 会場レイアウト

A (4階)：6つのステーション（A～F）の待機室と競技室のレイアウトと動線を示す。学生チームは、誘導係の指示にしたがって、5階の控え室から4階に移動し、指定のステーションから競技を開始した。各ステーションへの指示と競技の状況のモニタリングをRoom13で行った。B(5階)：事務局、全体会場（開会式・成績発表・講評・学生待機室）、実行委員控え室

まとめて総合成績を確定した。医学生チーム全員、実行委員、スタッフが集合して、成績発表と講評を行い、総合成績上位6チームを表彰し、1~3位に記念メダルを授与した。また、各ステーションの優秀チームを表彰した。講評は、各ステーションの審判員から、課題のねらいと学生のパフォーマンスで気付いた点について、また、全体講評を実行委員長とコーディネーターから行った。全体討論では、各大学の臨床実習の状況、シミュレータや模擬患者を活用した教育の実状、今

回の企画に参加した感想などについて、意見が交わされた。当日、全国各地へ帰途に向かう時間的制約があったが、共用試験 OSCE や各大学の臨床実習後 OSCE と性格が異なり、3人のチームで臨床能力評価を受けること、シミュレータに臨床推論を加えた課題に取り組んだことは、新鮮で良い刺激になった、という趣旨の感想が多数であった。参加した医学生、実行委員、スタッフ全員で、記念写真を撮影して日程を終了した(写真G)。なお、あらかじめ希望があった15名の見学を、

表4 シムリンピック2014開催概要

A 当日のスケジュール (和歌山県立医科大学 高度医療人育成センター)

年月日	時刻	内容
2014年 7月20日 (日)	8:30-9:00	受付・抽選 (5F 受付) ・参加受付 ・組合せ抽選 ・シングルス・ステーションのエントリー
	9:10-10:20	開会式 (5F 会場) ・主催者挨拶 ・審判員 (評価者) 紹介 ・競技と記録の使用に関する説明 ・参加チーム自己紹介 ・選手宣誓
	10:30-13:34	競技 (4F 6ステーション) 各ステーション10分、移動4分 チーム1~6 10:30~13:20 チーム7~12 10:44~13:34
	13:35-14:20	昼食 (5F 会場) ・アンケート配布
	14:30-15:30	成績発表・講評 (5F 会場) ・成績発表、表彰 (メダル・賞状授与) ・総合優勝チームあいさつ ・講評 ・全体討論、アンケート記入 ・記念写真撮影

B 参加者数・見学者・マンパワー

区分	(人)
参加した医学生	36 (3×12チーム) 5年生23, 6年生13
見学者	15
実行委員	24
スタッフ	6
模擬患者	2



写真 A シムリンピック 2014 のステーション課題 A 身体診察と基本手技
 写真 B シムリンピック 2014 のステーション課題 B 急変対応
 写真 C シムリンピック 2014 のステーション課題 C 臨床手技を伴う医療面接
 写真 D シムリンピック 2014 のステーション課題 D 心臓聴診と循環器疾患
 写真 E シムリンピック 2014 のステーション課題 E 救急蘇生
 写真 F シムリンピック 2014 のステーション課題 F 肺音聴診と呼吸器疾患

学生の競技に影響しないように分散して受け入れた (表 4B)。

4. 参加者アンケート

競技終了後、参加者 36 名全員 (表 4B) に記名式の紙面アンケートを行い (回収率 100%)、本企画への感想、自大学のシミュレーション教育、臨床実習の状況を調査した。このアンケートの回答学生は、自らの力試しのために本企画に参加し

た臨床学習に積極的な一部の学生であること、また、所属が 11 大学医学部に限られることに留意する必要がある。結果を人数 (%) で示す。

4-1. シムリンピック企画について

4-1-1. 今回の企画に参加して良かったと思うか？

そう思う 28 (77.8), やや思う 8 (22.2), どちらともいえない 0 (0), あまり思わない 0 (0),

G



写真 G シムリンピック 2014 参加医学生, 実行委員, スタッフの記念撮影

思わない 0 (0)

4-1-2. 参加動機は何か?

チームメンバーに誘われて 16 (44.4), 先生の勧め 13 (36.1), ポスターを見て自発的に 8 (22.2)

4-1-3. 参加学年として適切だと思う学年は?

5・6年生いずれでもよい 33 (91.7), 6年生のみがよい 1 (2.8), 5年生のみがよい 2 (5.6)

4-1-4. 企画の形式についてどう感じたか?

今回のような競技性があったほうがよい 32 (88.9), もっと違った競技性があったほうがよい 1 (2.8), 競技性はないほうがよい 2 (5.6), 無回答 1 (2.8)

4-1-5. 開催時期は妥当か?

今の時期でよい 33 (91.7), 他の時期がよい 3 (8.3)

4-1-6. 旅費の経済的な負担はどうか?

大学から全学補助あり 14 (38.9), 大学から一部補助あり 5 (13.9), 大学から補助なし 13 (36.1), 無回答 4 (11.1)

初めて開催したシムリンピック企画に対し, 全ての参加者から肯定的な反応が確認された。主要な意見は, 課題への挑戦が面白かった・楽しかった,

他大学の学生と一緒に学ぶことに刺激があり, モチベーションが高まった, 経験ないシミュレータを体験できた, チームで事前勉強・練習ができた, 実力が自覚できたこと等であった。

参加対象を 5, 6年生としてチームで申し込むこと, 7月の開催時期については, 大多数が賛同した。一部の 5年生から臨床実習がもう少し進んだ時期の希望があった。過度の競争感覚が臨床教育に馴染まないのではないかと懸念については, 約 9 割の医学生が臨床パフォーマンスの優れたチームが表彰されることを肯定的にとらえていた。申し込み段階から当日まで, 本企画の趣旨の説明を繰り返したことで, 適度な緊張感を保ちながら, かつ, チームで楽しみながら学ぶイベントにできたと考えている。海外でも, 臨床学習の動機付けを目的として, 医歯薬系学生を対象とした clinical skills competition が実施されている³⁻⁵⁾。

参加大学の約半数の 6 校が, 参加学生に経済的な支援を行ったが, 委員会として具体的な金額まで質問は行っていない。遠方からの医学生の経済的な負担については今後の課題である。

4-2. シムリンピック課題への感想と各大学の教育状況

図2に、6つの課題についての参加学生の感想（A：難易度，B：競技時間，C：自己評価）を示す。難易度と競技時間は、‘ちょうどよい’という感想が多数であった。しかしながら、心臓聴診シミュレータを用いた課題（St.D）と肺音聴診シミュレータを用いた課題（St.F）は、難しいという回答が多かった。これらの課題は、聴診手技

に問題解決のための医学知識が要求された課題であった。一方、救急蘇生マネキンとAEDを用いた救急蘇生の課題（St.E）を‘かなり易しい’、‘やさしい’と回答した学生が多かった。医療面接を行いながら縫合手技を実施する課題（St.C）では、難易性や時間不足を感じていないにもかかわらず、‘あまりできなかった’、‘ほとんどできなかった’という回答が目立った。表5に、参加学生の事前学習の状況を示す。過半数の学生が、

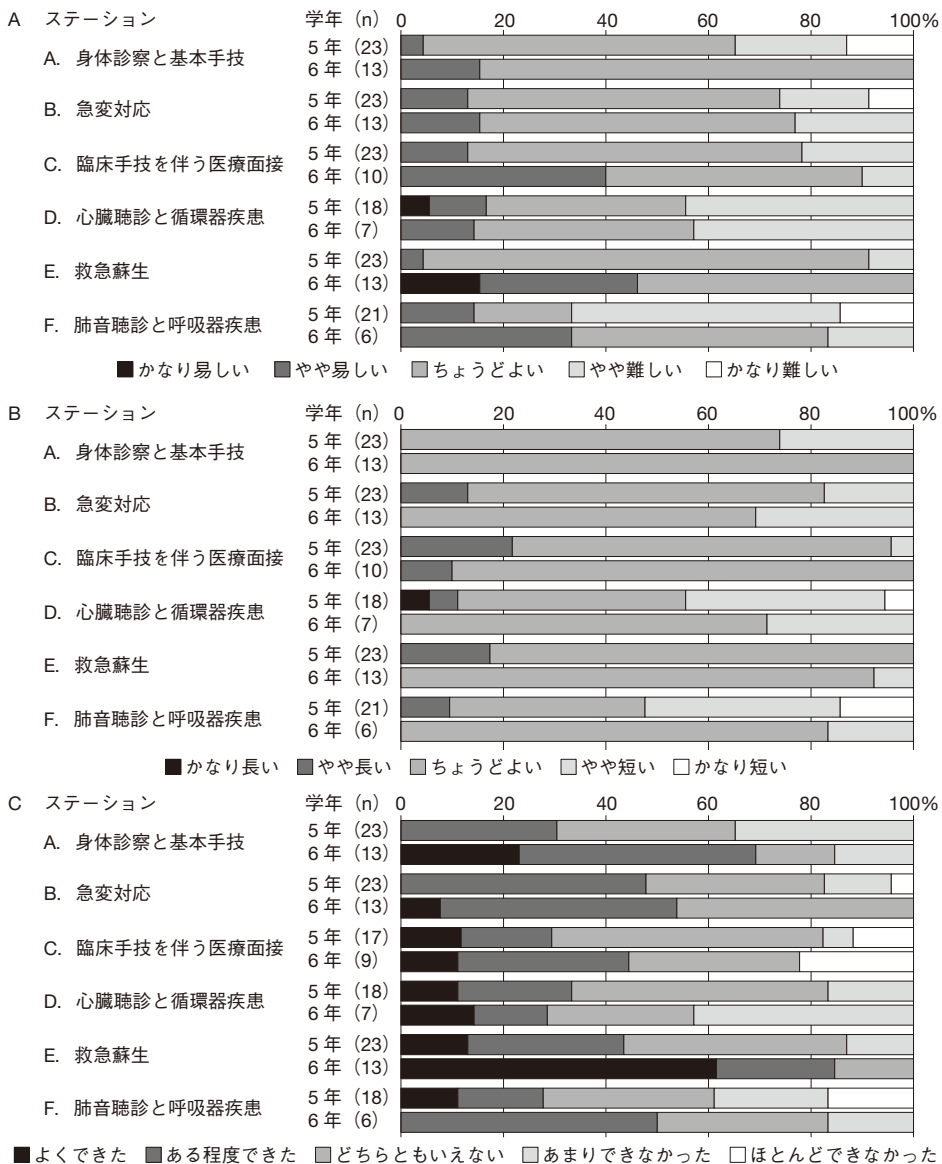


図2 シミュレーションを用いたステーション課題についての参加学生の感想

A：難易度，B：競技時間，C：自己評価

表5 参加学生の事前学習の状況

シミュレータ	練習あり % (回答数)	1回あたりの練習時間	
		平均±SD 分 (回答数)	練習回数 平均±SD 回 (回答数)
心臓聴診シミュレータ	80.6 (29)	50.2±30.8 (25)	2.3±1.9 (27)
肺音聴診シミュレータ	80.6 (29)	52.6±50.5 (23)	2.0±1.4 (25)
高機能救急患者シミュレータ	58.3 (21)	73.3±46.2 (15)	1.6±1.0 (18)
救急蘇生マネキン	75.0 (27)	46.2±34.7 (21)	1.5±1.1 (22)
AED トレーナー	77.8 (28)	47.1±33.4 (19)	1.8±1.2 (19)
縫合セット	63.9 (23)	54.3±42.8 (14)	2.7±4.5 (17)
直腸診シミュレータ	50.0 (18)	34.4±22.9 (8)	1.7±0.6 (11)
静脈採血シミュレータ	61.1 (22)	47.3±36.7 (15)	2.4±4.4 (18)
医療面接	25.0 (9)	66.3±48.1 (8)	3.4±2.9 (9)

模擬患者との医療面接を除き、今回用いたシミュレータで事前学習を行っていた。

今回の課題に対応するための教育が実施されているか(図3A)、課題で用いたシミュレーション教育(シミュレータや模擬患者)が活用されているか(図3B)についても質問した。臨床教育が‘十分なされている’、‘なされている’と肯定的に回答した学生が60%を超えた課題は、救急蘇生の課題(St.E)のみで(図3A)、救急蘇生マネキン・AEDの高い活用状況に一致した(図3B)。一方、肺音聴診シミュレータを用いた課題(St.F)、高機能救急患者シミュレータ(St.B)を用いた課題に対応する教育やシミュレータ活用状況は低かった。シミュレータを操作するインストラクターの養成が課題と考えられる。基本的臨床能力の獲得に不可欠と考えられる模擬患者、静脈採血、直腸診シミュレータの活用状況についても、約半数の学生が否定的な認識であった。

4-3. シミュレーション教育の状況

参加学生に自大学のシミュレーション教育を活用した臨床教育の状況について調査した。結果を人数(%)で示す。

4-3-1. 臨床シミュレーション教育施設は学生教育に活用されていると思うか？

十分活用されている 1 (2.8)、ある程度活用されている 12 (33.3)、どちらともいえない 4

(11.1)、あまり活用されていない 12 (33.3)、ほとんど活用されていない 7 (19.4)

4-3-2. 臨床シミュレーション教育施設は学生の利用を補助する教職員によってサポートされているか？

されている 22 (61.1)、されていない 8 (22.2)、わからない 6 (16.7)

4-3-3. 臨床実習で、シミュレータでの経験なしに、いきなり患者に行うことで戸惑いやためらいを感じた経験はあるか？

あった 20 (55.6)、なかった 16 (44.4)
その手技は何か？

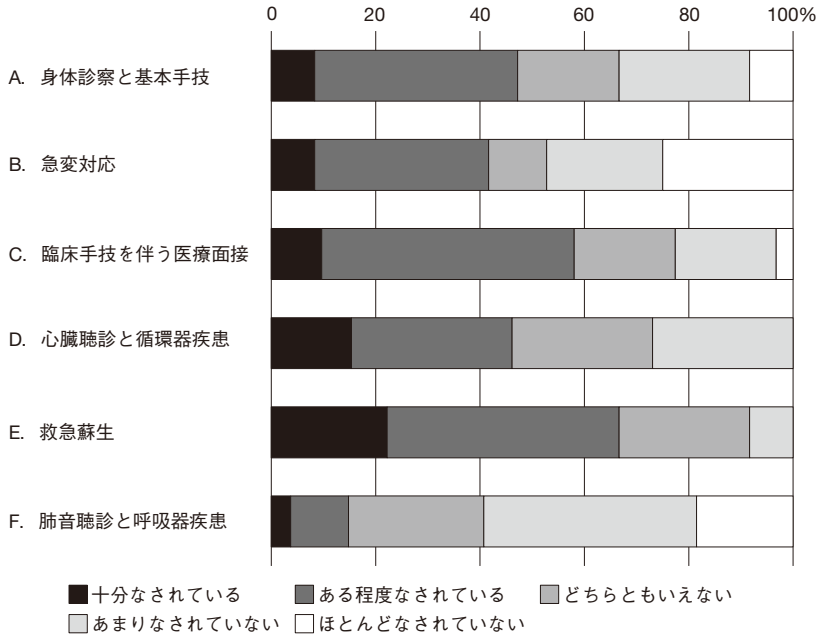
直腸診 6、動脈採血 3、縫合 3、静脈採血 2、導尿 2、腹部触診 1、静脈ルート確保 1、同意書をとること 1

4-3-4. シミュレーション教育を活用するために不足していると感じるものは何か？

図4に結果を示す。医学生の臨床シミュレーション教育施設に対する認識は二分した。過半数の施設で、スタッフが確保されているものの利便性や管理担当者が周知されていないとの意見があった。未だにシミュレーション施設はOSCE前の学習目的との認識も多く、臨床実習で患者を前にして戸惑ってしまった学生を約50%認めた。

興味深いことに、シミュレーション教育の活用をはかるために不足している項目として、参加学生が最も多くあげた要因は、‘学生の関心が低

A



B

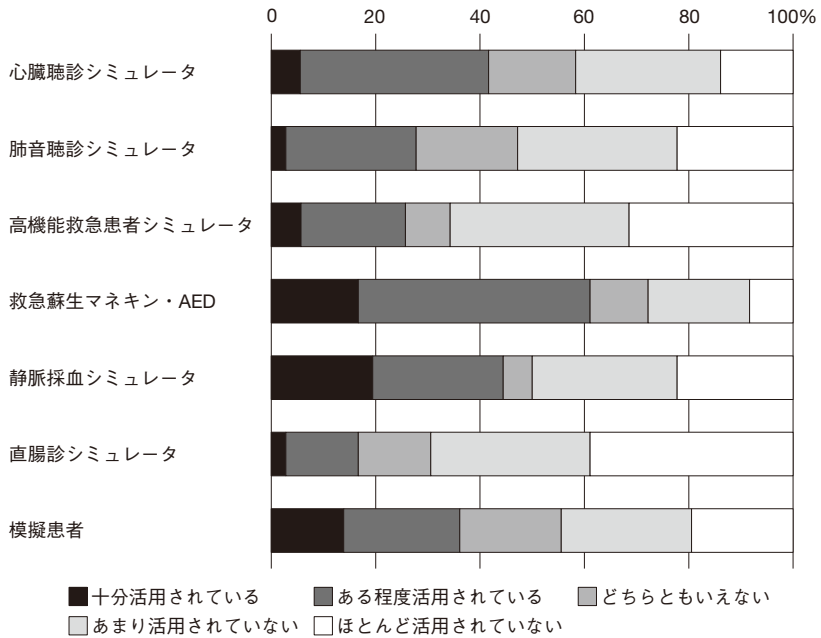


図3 所属する大学での臨床教育の状況

A. 課題に対応するための教育の実施状況

B. 課題で用いたシミュレータや模擬患者の活用状況

い28(77.8)'であった。医学生にシミュレーション学習の利点を啓発する取組みが必要であると考えられる。'臨床実習で教員が活用していない19

(52.8)'要因も相変わらず指摘されており、全ての医学生がシミュレーション教育の恩恵を享受できるように継続的な努力が必要と考えられる。

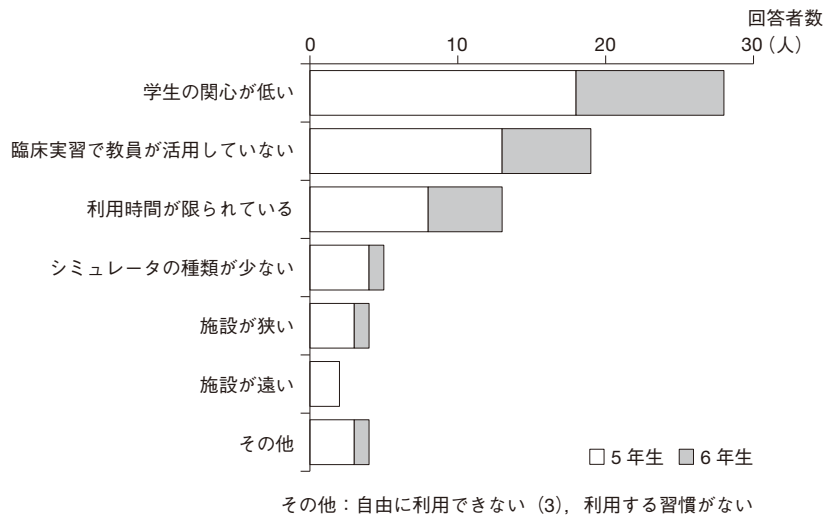


図4 医学生がシミュレーション教育を活用するために不足していると感じていること

4-4. 自大学の臨床実習について

4-4-1. これまでの臨床実習に満足しているか？

かなり満足 3 (8.3), やや満足 11 (30.6), どちらともいえない 11 (30.6), やや不満 8 (22.2), かなり不満 3 (8.3)

4-4-2. 診療参加できていると感じているか？

十分参加できている 2 (5.6), ある程度参加できている 16 (44.4), どちらともいえない 7 (19.4), あまり参加できていない 11 (30.6), ほとんど参加できていない 0 (0)

自大学での臨床実習についての感想では、熱意や配慮のある指導医がいる場合に診療参加型実習ができるが、担当する教員や診療科による大きな差があるのが実状との意見が多かった。一方、大半の臨床実習が見学型で、診療経験が十分でないこと、放任される時間が多いことを指摘する学生も少なくなかった。また、外来実習が少ないこと、レポート作成に終始していること、診療後のフィードバックがないこと、臨床推論の学習機会が少ないことが指摘された。

5. まとめ

教材開発・SP委員会が初めて企画した全国医学生イベントであるシムリンピック2014について報告した。臨床実技試験の実施に伴う実務の流

れと作業量、人的組織、必要リソース、参加学生を対象としたアンケート結果についてまとめた。臨床実習を経験している医学部5、6年生を対象としたこのイベントでは、和やかな雰囲気の中に真剣さを感じられ、自主的に参加した学生が持つモチベーションの高さが実行委員にも強く伝わり、よく計画された客観的臨床能力評価の重要性を実感する機会となった。参加した医学生達は、イベント前日に自主的な交流会を開き、他大学の学生と積極的に交流していた。3名のチーム単位で臨床実技課題に挑戦する機会は、個人の診療技能にとどまらず、お互いの協力を必要とする診療能力を評価する新しい試みでもあった。

我が国の臨床教育の向上をはかるために、シミュレータや模擬患者の特性をどのように活かしたらよいか、この企画の準備段階での全国教員の連携、医学生達の反応から多くの留意点と課題が明らかになったように思われる。

謝辞

日本医学教育学会 教材開発・SP委員会の委嘱を受けて、初企画であったシムリンピック2014開催と報告書作成のために、実行委員として御尽力いただいた先生方と和歌山県立医科大学、大阪市立大学、福島県立医科大学のスタッフの方々に深謝いたします。

文 献

- 1) Forrest K, McKimm J, Edgar S. *Essential Simulation in Clinical Education*. Wiley-Blackwell, West Sussex, UK, 2013.
- 2) 石川和信, 菅原亜紀子, 小林元, 他. 医学教育におけるシミュレータ活用に関する全国調査 2012. *医学教育* 2013; **44**: 311-314.
- 3) ASHP (American Society of Health-System Pharmacists) Clinical Skills Competition. URL: <http://www.ashp.org/clinicalskills> (accessed 10 February, 2015)
- 4) Weng YH, Kuo KN, Yang CY, Liao HH, Chen C, Lo HL, Lee WC, Chiu YW. Effectiveness of national evidence-based medicine competition in Taiwan. *BMC Med Educ*. 2013; **13**: 66.
- 5) Dental clinical skills competition. The Royal College of Surgeons of Edinburgh. URL: <http://www.rcsed.ac.uk/the-college/faculty-of-dental-surgery/dental-skills-competition.aspx> (accessed 10 February, 2015)